

平成 21 年 2月

# 山脇美香 学位論文審査要旨

主 査 黒 澤 洋 一  
副主査 中 込 和 幸  
同 中 島 健 二

## 主論文

Changes in prevalence and incidence of Parkinson's disease in Japan during a quarter of a century

(日本における四半世紀にわたるパーキンソン病有病率、罹患率の推移)

(著者：山脇美香、楠見公義、古和久典、中島健二)

平成21年 Neuroepidemiology 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はパーキンソン病の疫学的調査を行い、検討したものである。その結果、パーキンソン病の有病率の増加を認め、door-to-door調査はservice-based調査に比較し有病率が高いことが判明した。本論文の内容は、パーキンソン病の本邦における経時的変化を明らかにし、疫学的意義のみならず、パーキンソン病の早期診断の重要性を明らかにし、学術水準を高めたものと認める。